

第 33 回国際軍事史学会大会の概要

小谷 賢

2007（平成 19）年度の第 33 回国際軍事史学会大会は、8 月 12 日から 17 日までの 6 日間、南アフリカ・ケープタウンにて開催された。「諸地域と地域間協力、そして軍事力」を共通テーマとした今回の大会には、43 カ国から 150 名の研究者が参加した。南アフリカでの開催ということで、アフリカ諸国の参加、またアフリカに派遣されている国連関係者などが参加していたようである。日本からは、国際軍事史学会の委員でもある高橋久志軍事史学会長、林吉永前戦史部長、小谷賢戦史部第一戦史研究室教官の 3 名が参加した。その他のアジア諸国では、韓国から 2 名（韓国国防部軍史編纂研究所）、中国からは 5 名（中国人民解放軍軍事科学院、内 1 名は通訳）が参加している。

報告の合間や夜にはレセプションが多く準備され、各国の研究者、軍関係者と意見交換をする機会に恵まれた。特に大陸ヨーロッパ諸国、中東、アフリカの研究者とは普段意見交換する機会があまりないため、今回の国際軍事史学会は貴重な場であった。

各報告を拝聴した印象としては、アフリカでの開催のため冷戦期から現代までの地域紛争やテロ、大量破壊兵器拡散の問題が多く論じられ、伝統的な軍事史という枠に捉われないう議論が盛んに行われた。また本学会に参加することで、日本にいると関心が薄れがちなアフリカの諸問題、特に赤道以南のアフリカの歴史や現状について知見を深めることができた。またこちらからは、唯一アジアの軍事史について報告をすることができ、これに対して各国の参加者は意欲的に議論に参加した。

（防衛研究所戦史部 教官）